

講師 Profile 森 耕治 (もりこうじ)

京都出身。美術史家。

5歳の時より油絵を学び、11歳で京都市立芸大講師、川端紘一画伯に師事。京都府立嵯峨野高校卒。ソルボンヌ大学、ルーブル学院、パリ骨董学院で学ぶ。

2009年よりマグリット美術館が併設されているベルギー王立美術館公認解説者。元京都嵯峨芸術大学客員教授。日本とヨーロッパにおいて年間約20回の美術講演会を行い、日欧の文化交流に貢献。東京のベルギー大使館主催の講演会を6回担当。そのうち2回は総理夫人が列席。

2016年に、ベルギー国王来日に際して、国賓として宮中晩餐会に招待される。



2018年より、東京大学で年に6回、公開講座を開催し、

毎回満席にしている。フェルメール講演会は、東大で過去3回、大阪大学で1回開催して、すべて満席だった。2019年9月より大阪大学中ノ島センターでも公開講座を開催。

著書

「マグリット、光と闇に隠された素顔」「ベルギー王立美術館日本語解説書」、「フェルメール、無言の叫び」「ゴッホ、太陽は燃え尽きたか」等多数。



光の魔術師、バロック期の名画家フェルメールの謎に迫る至極の講演

誰もがその作品を一度は目にし、聞いたことがあるフェルメールの名前。ヨハネス・フェルメールは、ネーデルラント連邦共和国(現オランダ王国の原型)の画家で、映像のような写実的な手法と綿密な空間構成そして光による巧みな質感表現を特徴とするバロック期を代表する画家の1人である。彼の生涯は謎が多く、独自の技法により風俗画と云う形で自分の信仰を表わしているともされ、作品の中のモチーフに寓意(物事にそれとなく意味をほのめかすこと)を込めることが多いと云われています。「謎多き画家」と称されるフェルメール作品を専門の解説者が解説し、構図や内面的に込められた作者の意図、作品にまつわる時代背景などをひも解きます。絵画鑑賞の着眼点や、奥深さを知り、更なる興味の世界を広げて下さい。

右作品は「リュートを調弦する女」

画中の女性はリュートを弾いているのではなく、調弦しているところ。女性は窓の外を見つめ、誰か(おそらくは恋人)のやって来るのを心待ちにしている風情である。トリミングで見えないが、画中向かって右には空席の椅子があり、やがてやって来る来訪者のあることを暗示している。

※表面作品は、「デルフトの眺望」「牛乳を注ぐ女」「天文学者」

